

令和元年度第2回浦安市総合計画審議会議事録

1 開催日時 令和元年7月24日（水） 午後3時00分～午後5時30分

2 開催場所 文化会館3階大会議室

3 出席者

（委員）

坂本森男会長、石川好信委員、男全寛子委員、樂々道夫委員、五月女香代子委員、相原勇二委員、大川三敏委員、宇田川勝久委員、加藤升委員、小林澄子委員、齊藤榮一委員、高橋洋介委員、福元明彦委員、窪園博俊委員、小瀧修委員、近藤さなえ委員、野澤和弘委員、本庄篤子委員
（事務局）

内田市長、小檜山企画部長、山崎企画部次長、土久企画政策課主幹、春田企画政策課課長補佐、峯崎企画政策課副主幹、竹森企画政策課副主幹、岡本、戸邊、武内、石坂、野村、大木、広瀬

4 議題

(1) 基本計画素案について

- ・第1章（基本計画の基本的考え方）
- ・第2章（都市構成の基本方針）
- ・第4章（施策の体系）
- ・第5章 基本目標1（育み学び誰もが成長するまちへ）
基本目標2（誰もが健やかに自分らしく生きられるまちへ）

5 議事の概要

(1) 基本計画について

第1章においては将来人口・世帯数の見通しや財政の見通しについて、第2章においては土地利用の方向性や整備する拠点について事務局から説明があり、その後質疑がなされた。

(2) 基本目標について

基本目標1においては子育てや教育等で展開する施策について、基本目標2においては医療や福祉等で展開する施策について事務局から説明があり、その後質疑がなされた。

(3) その他

次回の会議は、令和元年8月8日に行う。

6 会議経過

会長：事務局より説明いただいた議題について、皆様からご意見をいただきたいと思
います。

委員： 税収面から浦安市の将来を考えると、結婚・子育てを前提とした世代の転入を
促進することが重要になると考えます。保育園の増設などの子育て支援や仕事の

- 支援等の強化について検討する必要があるのではないのでしょうか。
- 市長： 生産年齢人口の減少を抑制していくことの重要性は認識しています。子育て支援により力を入れていくとともに、子育て世代や会社に勤めている方が、浦安市に住んでいただけるような土地利用の在り方などを検討していくことも必要であると考えています。
- 委員： 「施策分野の成果指標」について、基準値や目指すべき方向性は記載されているものの、基準値の相対的水準や10年間での目標値などは記載されていない状態にあります。相対的水準や目標値の記載について検討する必要があるのではないのでしょうか。
- 市長： この成果指標が浦安市の実態を表しているのか、再度検討しようと考えております。また、基準値の相対的水準などの見せ方については引き続き検討を続けます。
- 委員： 世代を越えた交流により、高齢者の社会参画やシニア層の活躍の場を拡大することが重要であると考えます。例えば、図書館等に世代を越えた交流の部屋のようなものを設置することなどについて検討する必要があるのではないのでしょうか。
- 委員： まちづくりを進める上では文化・芸術が重要になると考えています。浦安市は羽田空港・成田空港へのアクセスが良好で、国際間の拠点となるポテンシャルがあるため、今後は海外との交流を含めた文化・芸術の在り方を検討する必要があるのではないのでしょうか。
- 委員： 私の子どもが通う学校で漢字や計算などの夏休みの宿題が課されませんでした。英語やプログラミング教育等に注力していただけることはありがたいのですが、従来から取り組まれている学習指導等を疎かにしないカリキュラムを組んでいただきたいと感じました。また、そのような学習をする際に老人クラブの方々にお世話になる機会があれば、地域の高齢者との交流の場にもなり、良いのではないのでしょうか。
- 市長： 地域の中の人材という資源をどのように活かしていくかは、この計画の中でも大きな課題となっています。地域の中でスキルのある方々が浦安にはたくさんいらっしゃるので、部活や放課後の勉強の指導など様々な人が行き来できることが大切になってくると思います。
- 文化・芸術については、例えば瀬戸内の国際芸術祭のようなものが、ここ浦安で花開くことがあれば良いと思います。
- この計画は総論的なものになっているので、よりエッジの効いたイメージのものをまちづくりの重点プロジェクトとして掲げさせてもらおうと思っています。
- 委員： 地域の高齢人材の活用を促進するためには、現在個人で行っている学童クラブのボランティアを組織化する必要があると感じます。地域子ども達と地域のために自身の経験を活かしたいと考える高齢者を繋ぐ役割を市が担うことが重要ではないのでしょうか。
- 委員： 浦安市の立地特性を活かし、「世界の中の浦安」という考えで国際的な文化交流活動を検討してはどうでしょうか。
- 委員： 学生が将来の進路等を検討する際に、知識として様々な選択肢の存在を知っていることが重要です。そのため、小中学生等を対象に様々な経験を有する浦安市の大人が情報提供して、彼らの世界を広げていくことが重要だと考えます。
- 委員： 学校教育の現場では業務量が多いため教員が疲弊し、過労死ラインに達している人もいます。教育問題に取り組む際には、教員の数を増やすか業務量を減らすことについて検討する必要があると思います。
- 委員： コミュニティの在り方を考えた時、現在は地域のイベント等を中学校区で一つの単位とすることが多くなっていますが、中学校区を単位としたコミュニティは範囲が広いと考えます。そのようなことから、小学校区を単位としたコミュニテ

- イを作っていくことについて検討する必要があると思います。
- 市長： 学校をどのように取り上げていくのかというのは一つの大きな命題・課題であると考えています。学校区の単位の話でいえば、例えば、地域包括支援センターは、今後も中学校区でいいのか、小学校区にするのか、自治会集会所あるいは老人クラブ会館等でサテライト的なものを設置していくべきなのか、様々な部分で地域のあり方を検討しています。また、検討の中では、世論というものにも左右されます。一時期、学校を地域の核としてもっと開放していこうということで、明海小学校は塀のない学校として整備しました。ところが、全国で児童の安全が脅かされるような事件が起きると、学校と地域との連携をどのようにしていくのかというような世論が出てきます。学校は地域の核でなければいけないと思っていますので、子ども達の安全と地域への開放の整合をどう図っていくのか、もう少し研究させていただきたいと考えています。
- 委員： 福祉の現場で人手不足が深刻な問題となっています。現在、国内の医療福祉で働いている人が823万人いて、これが2040年には1,070万人必要になってくるといふ推計が出ています。つまり250万人ほど足りなくなるということです。この2040年より先を見据えた取り組みが重要であると考えられます。浦安市の課題としては、近隣の自治体と比較して相対的な賃金の低さや魅力ある事業者が少ないことが考えられます。福祉人材を確保するためには、現場の魅力を学生に伝えるなどの人材確保や人材育成に向けた取り組みが必要だと思えます。
- 委員： 専門的スキルを有する福祉人材によるサービス提供には限界がきているため、市民が市民を支えることが重要です。これによって、市民は他の人の役に立つという役割を持つことができ、孤独感や疎外感を感じるものがなくなると思えます。
- 委員： 「基本計画（素案）」から成年後見人制度の視点が欠けていると感じました。現在、国では成年後見人制度の推進に取り組んでいるため、浦安市においても成年後見人制度を推進していくことが求められているかと思えます。
- 市長： 福祉分野に限らず人材を育成していく仕組みをまちの中で形成していくことが大きな課題であると認識しています。例えば、高洲南のコンソーシアムを作り、その中で福祉・介護について様々な知恵が出てくるような取り組みを考えていきたいと思えます。
- 委員： 滞留人口の増加によって本市におけるゴミ排出量の増加等の問題が生じています。現在の歳入の中からこれらのゴミを処理することは困難であると考えため、本市への宿泊者に対する課税等によってゴミ問題に対応してはいかがでしょうか。
- 委員： 現在、50年代から建てられた公共施設の老朽化による修繕費の積み上げが問題になっています。このような現状を踏まえ、運動施設等の有効活用についてより積極的に検討していく必要があると考えます。
- 市長： スポーツ施設について、例えば市外に浦安市民のグラウンドを持つなど、隔地での色々な取り組みも今後、必要だと感じています。
- 委員： 浦安市にはまだスポーツへの興味・関心の低い市民が多くいる状態にあります。例えば、市民意識調査で自宅以外でのスポーツの観戦をしたことがないと回答した人が50%いました。今後はこのような市民に対して、どのようにしてスポーツの魅力を伝えていくのかについて考えていく必要があると思えます。
- 委員： 児童育成クラブに加入している児童は、放課後の時間を児童育成クラブに加入していない児童と一緒に遊ぶことができません。そこには怪我等があった際の責任の所在が曖昧であるといった要因があると考えられます。今後は児童育成クラブの対象年齢の拡充なども含め、子どもの立場で取り組みを検討する必要があると思えます。
- 委員： 浦安市において生涯学習の環境は充実していますが、平日昼間に働いている市民にとっては利用しにくい時間帯での講座の開講が多くなっていると感じていま

す。働いている市民向けの夜間クラスの開講について検討する必要があると思います。

委員： 最近は核家族世帯が増加したことにより、高齢者との接し方を知らない子どもが増えてきています。これを解決するためには、小学生の頃から高齢者と実際に接する機会を学校教育の中で提供していく必要があると思います。

市長： 核家族化していく中で高齢者と若者がコミュニケーションをとる機会が減っており、高齢者の方が子どもとどのように接して良いかわからない、あるいは子どもが高齢者の方とどのように接したら良いかわからないという声を聴きます。このような状況を変えていくことを今後検討していかなければならないと感じています。

委員： 浦安市における老人福祉施設は入居・利用するための料金が安いものも多く、安心して老後を迎えることができないと懸念しています。平均的な所得の人でも利用可能な老人福祉施設が増えていって欲しいと思います。

委員： 浦安市は羽田空港および成田空港に近く、また都心部へのアクセスも良好であると言えますが、これまで国際会議等のイベントが開催されていないと思います。この立地特性を活かし、国際会議等を開催することによって、浦安市を国際的な交流の拠点にすると良いと思います。

市長： 警備がしやすく、VIPルームが揃う舞浜を、県と連携しながら発信していければと思っています。

委員： 市内の情報を得る手段として市からの広報がありますが、私が60歳を迎えるタイミングで市民活動団体等からの連絡や案内等を受け取ることはありませんでしたので、市民と市民活動団体を繋ぐための役割を行政に担っていただきたいと思っています。

委員： 「基本計画（素案）」を拝読し、この計画には市民がどのようなまちの未来を作っていくのかというストーリーが抜けているように感じました。

委員： 財政的な余裕にもよりますが、医療・健康の取組として、若い人などを対象としてICT機器を用いた健康状況把握のための取組などについて検討する必要があると感じます。

委員： ディズニーリゾートを中心として浦安市に多くの方が日々訪れているが、その来訪者の急病対応によって市内の医療機関は苦勞を強いられています。浦安市民が安心して医療サービスを受けられるよう、ディズニーリゾート等の大型集客施設内での医療サービスの提供等について検討していただきたいと感じています。

委員： 舞浜など一部の地区には医療機関がない状態にあります。市民が住み慣れた地域で安心して生活ができるように、地域医療制度の整備と充実をお願いしたいと思います。

委員： 老人クラブ会館は全50地区のうち37地区で整備されており、千葉県内では最も整備率が高いと認識しています。地域コミュニティ活動の推進や市民の健康増進等において、積極的な老人クラブ会館の活用が重要であると考えております。

会長： 充実した審議ができたのではないかと思います。以上を持ちまして第2回浦安市総合計画審議会を閉会といたします。

以上